

橋本貞章

はしもと・さだあき。1948年、高知県生まれ。芝浦工業大学建築学科卒業。1級建築士。中堅ゼネコンで、アスベストが舞う現場で働いていた。64歳で中皮腫を発症、術後3年生存率は20%と宣告され、闘病中。

平穏な日々の中の前兆／思いもよらぬ病名の宣告／絶望の中での一縷の望み／生きたいが為の苦渋の決断／九時間に及ぶ右胸膜肺全摘術＋横隔膜・心膜合併切除再建手術／再発防止の為の三十回もの放射線照射治療／闘病生活における妻の献身的な支え／三年生存率二〇％に立ち向かう克己心の芽生え

# ほの 灰かな希望

アスベストに冒された  
中皮腫患者の闘病記

「術後3年生存率20%」と宣告されたアスベストに冒された中皮腫患者の死と向き合う克明な闘病小説。  
患者・関係者への癒しと闘病案内書

橋本貞章

Hashimoto Sadaaki

「人間、何時かは死ぬ」。  
「何時かは」とは、「何時か」。  
「何時か」は、命の期限。  
「何時か」は、分からない方が良い。  
分からなければ、  
夢や希望を抱いて生きていける。  
「何時か」は、  
絶対に分からない方が良い。

——「序」より

この本が新たな出会いとなり、全ての患者と家族の希望につながることを祈念いたします。

推薦・解説 古川和子  
(中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会会長)

四六版、304頁  
定価：本体 1700円＋税